

2018-6-30更新

2017年、世界はコックスの性別不問へシフトした。日本でも過去性別不問の要望があったが受け入れられなかった。世界に先駆け受容していればよかったのに。

1 コックスの性別規定

FISAの競漕規則(2013年改訂, 2016年11月現在)では、種目を「男子種目、女子種目」に分け、異性の舵手を認めていなかった。第20条は以下のとおり(27条(コックス)でも同様の記述と、デッドウェイト、マスターズでの例外などの記述がある。)

Rule 20— Men's and Women's Events

Only men may compete in men's events and only women may compete in women's events.

(男子および女子種目) 男子種目では男子のみが競技でき、女子種目では女子のみが競技できる。)

日本ボート協会の競漕規則も舵手の性別について同様の扱いで、性別不問の大会は、市民レガッタや少数の例外だけだった(例: 太田川BC主管のオータムレガッタは、一般種目と女子種目に分け、どちらも舵手の性別は不問)。しかし海外では、コックスの性別不問も昔から少なくなかった。昔、オックスフォード8+が女子コックスで来日した例があり、当時話題になった…それも、彼我の事情・意識の違いの裏返しである。

補足: 舵手の性差とパフォーマンス 舵手のパフォーマンスは、大きく3つの要素がある。①声による漕手の統制、②操舵技術、③体重(男女で下限体重規定値が異なる)。①と②について、性差に起因するパフォーマンスの違いはなく、③の体重差も、男子・女子別の体重規定を適用し、デッドウェイトで調整すれば何も問題はない。つまりコックスのパフォーマンスに性差を分ける合理的な理由が存在しない。

2 トリプルダイヤモンドによる舵手性別不問要望2000

2000(H12)~'03(H15)年頃、トリプルダイヤモンド(島田隆)は、「コックスの性別制限廃止」を日本ボート協会に要望した。端緒は全日本社会人・男子KFに女子舵手を起用したかったため、競漕規則第10条(種目)への、「各種目の性別制限に舵手は含まない」の追加を要望、理由は以下…

- ① 練習では舵手の性別に拘らず練習できるがレースには出られないのは不合理。代わりの舵手を探すのも大変。
- ② 少子化等に伴うコックス人口減少・技術伝承の困難さが、コックスの技術低下の原因。性別制限をなくせば編成が容易になり、コックスの育成、技量向上にも有効。
- ③ デメリットはなく、規則そのものだけが制限の理由。

それに対し日本ボート協会は「認められない」と回答、理由は…

- ① 現時点で、同様の要望は他団体より寄せられていない。
- ② 男子種目、女子種目の2種目のみで、混合種目はない。

そこでトリプルダイヤモンドは、全国の団体・有志に呼びかけ、同意を募った。その結果29団体から賛同を得た。

(太田川BCも2002年に、並行して広島県ボート協会に「県内レースでは、舵手の制限をなくして欲しい」と要望、トリプルダイヤモンドにも賛同の旨を伝え、賛同する団体のひとつとなった。)

トリプルダイヤモンドは2003年、同意書に米国、フランスの事例も添え、日本ボート協会に再度要望した。協会は理事会で本

件を審議、「さらに検討を重ねる」とした。しかし結局変化はなく、やはり「認められない」と回答。理由は前述の②のまま。

当時の小沢の個人意見・提案は以下(要約):

- 協会の検討内容や理由説明は不十分で「冷たい」。
- 協会が要望を正確に把握すべく全国聴査してはどうか。
- 公開ヒアリングしてはどうか。舵手不足・低下の危機感は、共有できるはず。互いに歩み寄るべき。互いにストレスな関係を長引かせるのは、時間を浪費し得るものはない。
- 性別不問の要望を、月刊ローイングに投稿してはどうか。
- 日本協会が進化(性別制限撤廃)の先駆を望まないのであれば、地方協会から広げてはどうか。22世紀?に性別制限が過去のものとなったとき、誰がそれを開拓し、誰が反対したかを歴史に刻んでおこう、と。

3 2017年、FISAが性別不問に改訂

2016年8月、リオ2016でのFISA会議で、2017年2月臨時総会(東京)での競漕規則改訂の議題のひとつとして、第20条・27条の改訂を提案した。「性別バランス」というテーマで、規則20条&27条—コックス、についての提案:

The image shows a slide titled "Rule 20" with the heading "Gender Balance Rules 20 & 27 – Coxswains". Below the heading, it says "Proposal:" followed by two numbered points: "1. The coxswain to be gender neutral. Men may cox women's crews and women may cox men's crews." and "2. The coxswain minimum weight to be a universal weight, e.g. 55 kgs, with maximum 15kg deadweight."

1. コックスは性別を問わない。男子が女子種目のコックスになってよい、女子が男子種目のコックスになってよい。

2. コックスの最小体重を男女共通とする。例えば、55kgとして、デッドウェイトを最大15kgとする。

ちなみに、2016年のアジア選手権では、男子8+でカザフスタンが女子コックスを乗せていた。予選は無許可だったため出漕できなくなったが、チームマネージャーミーティングで認められ、決勝は記録に残った。(FB・林邦之さんコメントより要約)

そして2017年臨時総会で、本議案は採択され、国際レースでは性別不問が常識となった。

遅くとも2003年に、日本が先駆けて性別不問の英断をしておけば、日本はひと未来分、先進的であっただろうに。いや、世界をリードすれば、もっと早い時期にこのルール改訂が実現したかもしれない。

それでも遅くはない。コックスの「性別不問」は、他の競技スポーツと比較してもユニークなアピールポイントになる。積極的に宣伝し、ローイング普及の一つの誘因としてほしいものだ。

さらに進めて、「デッドウェイト上限撤廃」も重要だ。コックスに、下肢欠損の体重の軽い障害者もチャレンジできる。世界にさがけてほしいところだ。